



感じて動く ～ Feel & Move ～

目指す児童像：かしこさいっぱい やさしいっぱい たくまさいっぱい

三城小学校 学校だより

R 6 . 8 . 9 第 8 号

校長 田中康隆

8月9日、子供たちが元気に登校してきました

夏休みの前半が過ぎて全校登校日を迎え、久しぶりに校内が子供たちのにぎやかな声に活気づきました。私の「元気でしたか？」の問いに、いつもよりも大きな声で「元気でした～」と返ってきます。全国的な猛暑や昨日の地震の報などを考えると、無事に夏休みを過ごし、有意義な時間を過ごしていることをとても有難く思いました。

さて、本日は長崎県民にとっては特別な日、長崎原爆の日です。私たちは、原爆や戦争で亡くなられた方々の思いや平和の尊さを感じ、次の世代に受け継いでいかなければなりません。

平和集会では、次のような話をしました。ご家庭でも話題にいただければ幸いです。

そうだ うれしいんだ 生きる喜び

たとえ 胸の傷が痛んでも…

これは、おそらく誰もが知っている「アンパンマンのマーチ」の歌詞です。その詩は、アンパンマンの作者やなせたかしさんによるものです。今日は、8月9日長崎に原爆が落とされた日ですが、やなせさんのアンパンマンに寄せる思いから平和について考えたいと思います。

やなせさんは、若いときに戦争を経験されました。ご自身も兵隊として様々な苦しい目に遭ったそうです。その中でも一番苦しかったのはお腹がすいても食べられないことでした。食べるものがなく、いつもお腹をすかしていたそうです。また、戦争が終わって故郷の高知に戻った時、小さい頃から助け合って生きてきた弟さんの死を知りました。「なぜ、弟は死に、僕は生き残ったのだろう」「弟は、生きていたら何をしたかったのだろう。代わりにできることは何だろう」と思い悩んだそうです。そして、「どの国も自分たちこそが正しいと言って戦争をするが、戦争は結局殺し合いでしかない。いろいろな理屈をつけて戦うけれど、正義の戦争なんてものはない」という考えに至りました。これは、今世界のあちこちで起きている戦争や紛争と同じですね。そんなある日、おにぎりを分け合って食べる兄弟を見て「本当の正義とは、おなかすいている人に食べ物を分けてあげることだ」「戦争は人を殺すことだが、食べ物を分けることは人を生かすことであり、命を応援することだ」と気付いたのだそうです。

世の中が少し落ち着いて、54歳になった時、やなせさんは「あんぱんまん」という一冊の絵本を出版しました。主人公のアンパンマンは、顔が濡れただけで力をなくしてしまうし、カッコいい武器も持っていません。でも、困った人や傷ついた人がいると、真っ先に駆け付ける。そして、自分の顔を食べさせることで元気を与える。また、敵を懲らしめることはしてもけっして命を取ったりはしません。やなせさんが、戦争中のつらい体験をもとに、正義や命について考え抜いた末に生み出した主人公だったのです。最初、顔を食べさせるなんて残酷だと世間の評判はよくありませんでした。しかし、「正義を行い、人を助けようとしたら、自分も傷つく覚悟をしなければならない。」「自分の食べ物をあげたら、自分が飢えてしまうかもしれない。いじめられている人を助けたら、自分がいじめられるかもしれない。それでも誰かを助けたいと思う時、本当の勇気が湧いてくるんだ」と、人気がなくとも「あんぱんまん」を書き続けたそうです。その後、アンパンマンは皆さんが知っているように多くの人々に愛されるヒーローになっていきます。

さて、皆さんの身の回りでも小さな衝突があります。その時、自分なりの理屈や正義があって友達と争っていると思います。今日の話はどう受け止め、今後どう過ごしていくかによって三城小学校が平和になり、皆さんの身の回りから世界の平和へと広がっていきます。強くなくてもいい。皆さんがアンパンマンのような勇気あるヒーローになってくれると嬉しいです。